

## パネルディスカッション

# 1. JCS2022ガイドラインフォーカスアップデート版： 日常臨床との整合性を考える

岐阜ハートセンター  
松尾 仁司

安定冠動脈疾患に対する管理・治療戦略の領域では、2つの診療ガイドライン「慢性冠動脈疾患診断ガイドライン（2018年改訂版）」と「安定冠動脈疾患の血行再建ガイドライン（2018年改訂版）」が策定されていたが、ISCHEMIA試験の結果をうけ、日本循環器学会（JCS）はそれらに含まれない重要な情報をフォーカスアップデート版として2022年3月に策定した。

このフォーカスアップデート版においては各施設の状況を加味し、負荷イメージングあるいはCTにより判断する場合と両者を用いて判断する場合にわけてカテーテル検査までのdecision treeを示している。フォーカスアップデート版では、年齢、性別、および胸部症状の性状に基づいて閉塞性冠動脈疾患の確率を推定する検査前確率モデルと病歴、心電図（異常Q波、ST-T異常）、心エコー図（左室壁運動異常）、血液・尿検査（脂質プロファイルの異常、血糖値・耐糖能異常）を用いて臨床尤度の評価を行い、修正検査前確率を推定する。閉塞性冠動脈疾患の可能性が極めて低い患者は、基本的に追加の検査を行わない。閉塞性冠動脈疾患の可能性が中等度の患者は、追加の検査を行う。フォーカスアップデートにおいて、複数の画像検査が施行可能な施設では、検査前確率が中等度（5～85%）の場合は高いNPVにより閉塞性冠動脈疾患を除外（ルールアウト）できる冠動脈CTA、検査前確率が高い（>85%）場合はリスク評価目的および血行再建適応判断のために負荷イメージングを推奨している。本ガイドラインは世界で最もCT装置が普及している日本において冠動脈CTAがファーストラインの検査としてすでに確立している点を見ると日常臨床に整合性がとれたガイドラインと考えられる。本講演ではフォーカスアップデート版の概説と心臓核医学の役割を臨床疫学の考え方をベースに提示する。

### 略歴

1986年 自治医科大学 卒業	2007年 豊橋ハートセンター 循環器科部長
岐阜県立岐阜病院 ローテート研修	2009年 岐阜ハートセンター 循環器科部長
1987年 ジョーンズホプキンス大学	2013年 岐阜ハートセンター 副院長
核医学科リサーチフェロー	2014年 岐阜ハートセンター 院長
1988年 岐阜県立岐阜病院 循環器科 固定研修	2020年 岐阜ハートセンター 院長 兼
1989年 国保高鷲村診療所 所長	愛知医科大学医学部 客員臨床医学系教授
1993年 岐阜県立岐阜病院 循環器科	2022年 岐阜ハートセンター 院長 兼
2006年 岐阜県総合医療センター 循環器科	愛知医科大学医学部 客員臨床医学系教授 兼
	岐阜大学医学部 客員臨床系医学系教授